

● ランドバンクへの期待

空き地や空き家の拡大が各地で問題になっているが、その解決の手法として注目を集めるのが「ランドバンク」だ。ランドバンクとは、民間取引では扱いにくい空き家などを取得し、権利関係を調整して再生して実績を挙げている米国発祥の仕組みであり、4月6日日経新聞夕刊一面は、「ランドバンク地方を救う」との見出しで、山形県上山市内の「動かぬ土地」をよみがえらせようとNPO法人「かみのやまランドバンク」が3月に準備会合を開いたと報じた。上山市や山形県宅地建物取引業協会、東北芸術工科大学、明海大学不動産学部などが理事となって近く法人登記が行われるという。それぞれの個々の不動産では活用が難しくても集めれば価値が出るという考え方に立ち、上山市が複数の空き家や空き地を所有者の理解を得ながらまとめて再生するプランを主導する。例えば、歴史的に価値のある未利用の建物の隣接地に老朽化した空き家がある場合、その空き家を解体して駐車場や道路の拡幅のために使えば、歴史的な建物を観光施設などとして活用する道が開ける。上山市は2019年度予算にNPO事務局経費350万円を計上し、NPO法人の運営を支援する方針だ。山形県には、NPO法人「つるおかランド・バンク」（鶴岡市）が先行事例として存在し、2013年から様々な相談に応じ、100件以上の土地問題の解決を図ってきている実績があり、これらをも参考にしつつ、上山市内に300以上ある空き家の再生につながることを期待されている。